

# 日本神経精神薬理学会 50周年「記念誌」のコーナー

当学会は1971年に「精神薬理談話会」として発足し、1981年、第11回談話会（主宰：名城大学 亀山勉教授）のときに「神経精神薬理研究会」に名称を変更しました。

その後1985年（第15回、主宰：京都大学 高折修二教授）のときに再び名称を変更し、そのとき以来

「日本神経精神薬理学会」となりました。

今回はその「談話会」時代の活動を振り返ります。

2020年7月6日  
50周年記念事業Working Group  
「記念誌」編集担当：廣中直行

# 「記念誌」PREVIEW

「記念誌」にはJSNPとゆかりの深い海外の著名研究者からお祝いの言葉を寄せていただきました。今回はご寄稿いただいた方々のお名前を紹介します。Family NameのABC順で、敬称は省略しました。

**Siegfried Kasper (Medical University of Vienna, Vienna, Austria)**

**Jon Soo Kwon (Seoul National University, Seoul, Republic of Korea)**

**Herbert Meltzer (Northwestern University, Evanston, IL USA)**

**Anthony G. Phillips (University of British Columbia, Vancouver, Canada)**

**Tian-Mei Si (Peking University, Beijing, China)**

**Tung-Ping Su (National Yang-Ming University, Taipei, Taiwan)**

**Andi J Tanra (Universitas Hasanuddin, Makassar, Indonesia)**

**Joseph Zohar (Chaim Sheba Medical Center, Tel-Aviv, Israel)**

# 「談話会」の頃 (1/2)

第1回の談話会は1971年3月20日(土)の午後、神経研究所の会議室で開かれ、23名の参加がありました。当日はこのようなプログラムで講演がありました。

## テーマ「行動薬理学の最近の動向」(演者の敬称略)

### I. 薬理から

- 1 歴史的展望 … 実中研 医学研 柳田知司
- 2 STPのオペラント行動におよぼす効果 … 実中研 医学研 安東 潔
- 3 Diazepamの剤型と投与方法による行動薬理学的効果の差異  
… 群馬大 薬理 田所作太郎

### II. 心理から

行動薬理の最近の動向(文献的見地より)  
CDPのラットの行動への効果

… 東教大 実験心理 岩原信九郎

### III. 臨床から

社会精神薬理学の登場

… 神経研 小林司



# 「談話会」の頃(2/2)

その後「談話会」は毎年1回開催され、「講習会」など多彩な活動を展開して行きます。現在の「年会」につながる学会スタイルになったのは、私の見るところ1973年の第3回(6月23日)からのようで、そのプログラムは以下のようなものでした。

## I. シンポジウムA: 向精神薬の未来

薬理学の立場から …… 田所作太郎  
(群馬大学)

精神医学の立場から …… 徳田良仁  
(神経研)

社会的立場から …… 大熊由紀子  
(朝日新聞)

## II. シンポジウムB: 新しい行動薬理学的 実験方法～私の実験室での試み

渋谷 健 (東京医大 薬理)  
植木昭和 (九州大 薬学薬品作用)  
重久 剛 (大正大 心理)  
小川治克 (群馬大 行動研)  
人見正博 (藤沢薬品 中央研)

## III. 一般演題

1. ドーパミンの脳室内注入によっておきる  
イヌの行動変化、およびレセルピンによる  
イヌの行動抑制におよぼすドーパミン脳室  
内注入の影響 …… 加藤 信(神経研)
2. 行動薬理学への小型電子計算機導入の  
試み …… 安東 潔(実中研)
3. 学習後投与方法によるpentobarbitalの分離  
効果 …… 高橋俊男・岩原信九郎  
(東京教育大心理)
4. 視床下部性行動反応の条件づけと向精  
神薬の影響 …… 峰尾好生(星薬大)

## 次回の「コーナー」予告

歴史を訪ねる意義は単なる回顧ではありません。草創期の熱気を知り、もしかしたらその後の発展の中で積み残してきた問題があるかも知れないと考えるのも大事なことはないかと思います。

さて前回のクイズ。

精神薬理談話会設立当初の会員数はおよそ何人だったでしょうか？

第1号ニューズレターには会員名簿が載っています。それによると会員数は34名です。したがって正解は「およそ30人」と言えるでしょう。

次回は、多くの先生方にとって思い出深い「夏の赤城合宿」を取り上げます。

そこでクイズ: 2泊3日の合宿、参加登録費はいくらだったでしょうか？

赤城までの往復旅費は含みません。1980年の「ご案内」に拠って考えます。

正解は次回の「コーナー」で...